

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

道徳ある経済国家を目指す

1. 市場競争原理やグローバル化進展の陰で、倫理や道徳が一方向的に置き去りにされている印象がぬぐえない。電力各社による原子力発電所のトラブル隠しやデータの改ざん、意識にかけた社会保険庁、牛挽肉の偽装にしろ、消費期限切れの材料で菓子を作ったメーカーにしろ、勤勉実直な国民性を誇るこの国で起きた事件とは思えない。
2. CSR などという外来語を持ち出さなくても、わが国には「三方よし」という近江商人の家訓がある。商取引は売り手と買い手の当事者だけでなく、世のため人のためにするものである、という教えである。「道徳経済合一論」を唱えた澁沢栄一も「事業という以上は、自己の利益とすると同時に社会国家にも益することではならぬ」と主張した。
3. 不正を働かない。下請けはいじめない。株主に報いる。従業員を処遇する等倫理ある経済においては、経営者のこのような誠実さや思いやりが評価されて企業価値が高まる。「道徳なき経済は罪悪である。経済なき道徳は寝言である」。農政家にして財政家であった二宮尊徳はこう喝破した。社会にどれだけ貢献できたかが、唯一の物差しとなる。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2007年7月14日号)

経営者のための営業学

一番の売り物は「極上のおもてなし」

1. 今年1月に発表された、旅行新聞社選定の「プロが選ぶ日本のホテル・旅選100選」で、27年連続総合1位を獲得した石川・和倉温泉の旅館加賀屋の一番の売り物は、「極上のおもてなしサービスであり、料理」なのだ。極上のおもてなしとは、客の心の内を察した、気働きあふれる接客のことだ。
2. ある日、客が小さな額に入った写真をテーブルの上に置いた。「そちら様は？」と客室係が尋ねると、「実は一緒に加賀屋に行こうと話していた家内を亡くしましてね…」と答えた。食事の時間になると客室係は、客のお膳とともに、亡くられた方の陰膳を用意した。そんな風景が加賀屋では、ごく自然に繰り広げられている。

(参考:「日経ベンチャー」:2007年8月号)

海外事情

香港で揺らぐ日本製品の信頼

1. 日本のチョコレート菓子「白い恋人」の賞味期限改ざん事件は、香港でもテレビや新聞で即時報道された。というのは、香港人にとって日本はタイと並んで人気旅行先。しかも大自然の醍醐味を味わえる北海道は、日本の中でも一番の観光地とあって、「白い恋人」は香港人にとってもなじみの「北海道土産」でもあるからだ。
2. 一方、日本製は食品をはじめ全ての製品に対して「品質が高い」「安全」というイメージが強く、絶対的な信頼を寄せている。このため「信じられない」という思いが強い。日本国内の一企業の不祥事も海外で伝えられると、一企業に留まらず、日本製品全体のイメージに影響を及ぼす可能性があるのだ。

(参考:「WEDGE」2007年10月号)

古典に学ぶ

殉国は乱世に易く、治世に難し

「国乱れて身を殉ずるは易く、世治って身をさいするは難し」

(訳) 国が乱れている時一身を捧げることは困難ではないが、平和になってから身を挺して奉公することは困難である。

(参考:佐藤一斎「言志四録」:PHP文庫)